

# 令和4年度 学習分析事業 改善計画 三原市立沼田小学校

## 1. 本年度の結果

### ①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

|    |                | 2年   | 3年   | 4年   | 5年   | 6年   | 全体   |
|----|----------------|------|------|------|------|------|------|
| 国語 | 前年度結果<br>偏差値平均 | /    | 52.3 | 46.7 | 52.3 | 52.1 | 50.9 |
|    | 本年度結果<br>偏差値平均 | 36.3 | 56.1 | 44.3 | 53.8 | 48.3 | 48.7 |
| 算数 | 前年度結果<br>偏差値平均 | /    | 57   | 45.8 | 55.2 | 48.3 | 52.1 |
|    | 本年度結果<br>偏差値平均 | 45.3 | 61.4 | 53.3 | 60.5 | 56.7 | 56.2 |
| 理科 | 前年度結果<br>偏差値平均 | /    | /    | /    | 50.5 | 50.7 | 51.3 |
|    | 本年度結果<br>偏差値平均 | /    | /    | 45   | 56.5 | 51   | 51.7 |
| 全体 | 前年度結果<br>偏差値平均 | /    | 54.7 | 46.3 | 52.7 | 50.4 | 51.5 |
|    | 本年度結果<br>偏差値平均 | 40.8 | 58.8 | 47.6 | 57   | 52   | 52.1 |

### ②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

| 教科             | 国語          | 算数         | 理科          |
|----------------|-------------|------------|-------------|
| 前年度結果<br>(対県比) | 73<br>(111) | 69<br>(98) | /           |
| 本年度結果<br>(対県比) | 64<br>(96)  | 61<br>(95) | 68<br>(103) |

## 2. 調査から明らかになった課題

|   |  |
|---|--|
| <p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>●国語では、考えや感想を持って伝え合う(38.7)、主題や構成を読み取る(52.0)、情報を選び構成を考えて書く(55.1)に課題があった。</p> <p>●算数では、「数と計算」(74.7)で、第2学年「たし算とひき算」(59.6)、第3学年「かけ算」(82.4)、第4学年「わり算」(47.3)第5学年「わり算」(55.0)、第6学年「数と小数のしくみ」(80.1)に課題があった。</p> <p>●理科では、第4学年「乾電池と豆電球」(11.2)、第5学年「人の体のつくりと運動」(87.5)、第6学年「物の種類や水の温度と溶ける量」(44.0)に課題があった。</p> | <p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語では、文章に対する感想や意見を伝え合い、文章のよいところを見つける(10.0)、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える(40.0)、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う(40.0)に課題があった。</p> <p>●算数では、示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる(30.0)、目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る(50.0)、示された場面的ように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している(30.0)に課題があった。</p> <p>●理科では、問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している(50.0)、実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる(30.0)、観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち(40.0)に課題があった。</p> |
|---|--|

## 3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

| 重点目標 (何を、どの程度達成するか)  | 達成のための具体的取組 (どのようにして)   | スケジュール   | 検証の指標・目標   |
|--|---|--|--|
| <p>【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭が、「問いの設定」を意識した授業を実施できるようにする。</p> <p>○全学級で、自力解決の場面で自分の考えを書けるようにする。</p> <p>○全学級で、自分の言葉でまとめや振り返りが書けるようにする。</p> <p>○全学級で、当該学年の漢字・計算が定着できるようにする。</p> | <p>①結果分析シートを活用した、NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案</p> <p>②研修による、全教諭での改善計画の共有(児童中心の授業展開、ノート指導・廊下掲示、予習の取組)</p> <p>③「問いの設定」を意識した算数科の板書を撮影し、共有ドライブを活用して、暮会で交流</p> <p>④全学級で、帯タイムを活用した校内漢字・計算検定に向けての反復練習及び検定の実施</p> <p>⑤全学級で、毎週木曜日の帯タイムに、「一〇〇マス作文」の実施</p> <p>⑥全教員による全国学力・学習状況調査の誤答分析による実態把握、課題のある問題の解説及び定着</p> <p>⑦全学級で、アシストシートを活用したドリル学習の実施</p> <p>⑧全学級で、NRTの類似問題を作成・実施</p> | <p>①6月</p> <p>②7月～</p> <p>③毎月1回</p> <p>④検定日(7月14日、11月下旬、3月上旬)を明確に示し、それに向けて国算を週2回ずつ(内1回は作文)実施</p> <p>⑤実力テスト(書く問題)の実施日(9月8日、12月1日)を明確に示し、それに向けて週1回実施</p> <p>⑥8月</p> <p>⑦1～4月の週2回ずつ国算を継続する</p> <p>⑧1～4月</p> | <p>・Q-U2回目の学習意欲の数値向上(全学級で1学期以上)</p> <p>・漢字・計算検定90点以上の児童100%</p> <p>・漢字計算検定初回と検定日の当同比120%以上(NRT評定1・2の児童)</p> <p>・実力テスト(書く問題)0点の児童0人</p> <p>・算数科単元テスト「思考・判断・表現」の平均50点以下0人</p> <p>・算数科単元テスト「知識・技能」の平均70点以上80%</p> |
| <p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○全学級において、肯定的な相互評価を行う。</p> <p>○全学級において、支持的風土の醸成をめざした望ましい学級集団づくりを行う。</p> <p>○全学級において解決する課題を設定し、協力する取組を行う。</p>   | <p>①学級ごとのQ-U結果分析による、実態把握と改善計画の立案</p> <p>②研修による、全教諭での改善計画の共有・実行</p> <p>③特支校内委員会や研修による、学級や児童の様子との共有</p> <p>④学級ごとのQ-U(2回目)結果分析による、変容の把握</p> <p>⑤帯時間にグループエンカウンターを取組</p> <p>⑥「ありがとうの木」はテーマを毎月設定して、達成感のある全校的取組</p> <p>⑦「沼田っ子チャレンジ」による、見える化した進捗状況を全校で把握</p>  | <p>①6月</p> <p>②7月</p> <p>③毎月1回以上</p> <p>④1～4月</p> <p>⑤毎週月曜の帯時間に継続</p> <p>⑥毎月更新</p> <p>⑦学年ごとに設定(1～2ヶ月に1回)</p>   | <p>・Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1学期以上)</p> <p>・Q-U2回目の三次支援を必要とする児童の減少</p> <p>・Q-U2回目のクロス集計表における「A」、「B-1」、「B-2」に該当する児童の増加</p>  |